

| | | | | |
|-------------------------|---|------|--|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | 産業・組織心理学 (2単位) | | 3. 科目番号 | SPMP3331 PSMP3331 |
| 2. 授業担当教員 | 大島 朗生 | | | |
| 4. 授業形態 | 講義、ディスカッション | | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。 | | | |
| 7. 講義概要 | 産業・組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、産業・組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定や消費者行動について学ぶ。こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。そして、学んだ産業・組織に関する知見に対して、どのような心理的援助ができるのかについて考究する。 | | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。 | | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前、事後学習を必須とする。 2. 授業期間中に、事後学習の内容による小レポートを数回課すので、その提出が求められる。 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2007</p> <p>【参考書】加藤容子・三宅美樹編『産業・組織心理学—個人と組織の心理学的支援のために』ミネルヴァ書房、2020</p> | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し、職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができたか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度と参加姿勢、および日常の学習状況 総合点の40% 2. レポート 総合点の30% 3. 期末試験 総合点の30% | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 人生の中で大きな比重を占める「働く」ということ。それが有償であれ無償であれ、個人、組織内であれ、自分らしく幸福に生きるための鍵になります。本講義では組織の中で働くことはどういうことかを踏まえ、そこにおける個人および組織を対象とした心理的支援について学びます。積極的な関心を持って授業に臨んで下さい。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 授業内で周知する。 | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第1回 | 産業・組織心理学の意義と歴史 | 事前学習 | 将来、自身が組織で働くことを想定した時に、どのような職場で働きたいか考えノートに記載する。 | |
| | | 事後学習 | 組織観の歴史的流れについてノートにまとめる。 | |
| 第2回 | 産業・組織心理学のテーマ | 事前学習 | テキスト pp. 14～23 を読み、5項目のうちどれに関心があるか、またその理由についてノートに記述する。 | |
| | | 事後学習 | 産業・組織心理学の4つの研究テーマについてノートにまとめる。 | |
| 第3回 | ワーク・モチベーション | 事前学習 | テキストⅡ (pp. 24～41) を一読する。また、自分が取り組んでいる学内外の組織活動において、やる気を保てた体験について記述。 | |
| | | 事後学習 | 上記の体験について授業内容をふまえて再分析し、ノートにまとめる。 | |
| 第4回 | 採用と面接 | 事前学習 | テキストⅢ (pp. 42～59) を一読し、分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。 | |
| | | 事後学習 | Ⅲの内容で、自身の面接に活かせるような知見について、どのように活かしたいかも含めてノートに記載する。(小レポート) | |
| 第5回 | 人事評価 | 事前学習 | テキストⅣ (pp. 60～75) を読み、分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。 | |
| | | 事後学習 | 授業の内容をふまえ、重要なワードについてまとめ直す。 | |

| | | | |
|------|---|------|---|
| 第6回 | キャリア発達① キャリア発達の理論 | 事前学習 | テキスト pp. 76～85 を読む。コラム5のキャリア・アンカーについて、自分が①～⑧のどのタイプに当てはまりそうか、考えてみる。 |
| | | 事後学習 | 授業の内容をふまえ、ホランドの六角形モデルのうち、自身はどのパーソナリティタイプか検討し、事前の内容と合わせまとめる。 |
| 第7回 | キャリア発達② キャリア発達への介入 | 事前学習 | テキスト pp. 86～97 を読む。P. 97 のキャリアストレスモデルを参考に、自身のワークライフバランスについて想像してみる。ノートに記載。 |
| | | 事後学習 | 前回と今回の課題をまとめ、自分のキャリア・パスについて再考し、1000字程度にまとめる。(小レポート) |
| 第8回 | 職場のコミュニケーションと人間関係① 職場集団とチームワーク | 事前学習 | テキスト pp. 98～109 を読む。自身が大学や部活等において、集団で何かをやり遂げた経験と照らし合わせて検討してみる。ノートに記載。 |
| | | 事後学習 | 授業内で学んだことをふまえ、事前学習の内容を再検討し気付いたことをノートに記載。 |
| 第9回 | 職場のコミュニケーションと人間関係② 意思決定と対人葛藤 | 事前学習 | テキスト pp. 110～119 を読み、用語の分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。 |
| | | 事後学習 | 職場内に限らない日常場面で自身が活かせるような葛藤解決方略はないか、検討してみる。 |
| 第10回 | リーダーシップ | 事前学習 | テキストⅦ (pp. 120～139) を読み、用語のチェックをする。また、自身の理想とするリーダー像について考えてくる。 |
| | | 事後学習 | 重要ワードについてノートにまとめ直す。授業で学んだことをふまえ、リーダー像について再考し、ノートに記述する。 |
| 第11回 | 消費者行動とマーケティング | 事前学習 | テキストⅧ (pp. 140～155) を読み用語のチェックをする。また、自身のこれまでの経験に当てはまる理論がないか検討し、ノートに記載。 |
| | | 事後学習 | 重要ワードをノートにまとめ直す。自身の経験についても振り返り、新しく理解したことを加えて800字程度で記述する。(小レポート) |
| 第12回 | 仕事の能率と安全性 | 事前学習 | テキストⅨ (pp. 156～171) を読み、分からない言葉及び特に興味がひかれた言葉をノートに書き出してくる。 |
| | | 事後学習 | 事前にチェックしたキーワードについて、ノートにまとめ直す。 |
| 第13回 | 職場のストレスとメンタルヘルス① | 事前学習 | テキスト pp. 172～181 を読む。また、職場のストレスはなぜ起こるのか、どのように解決できると思うか、自分なりに考察してくる。 |
| | | 事後学習 | 重要キーワードについてノートにまとめる。 |
| 第14回 | 職場のストレスとメンタルヘルス② | 事前学習 | テキスト pp. 182～192 を読む。また、前回の事前学習の検討事項についてさらに考察し、ノートに記載する。 |
| | | 事後学習 | 前回と今回の学習内容をよくふまえ、職場のストレスとその支援について自分の考えをまとめる。 |
| 第15回 | 職場のストレスとメンタルヘルス③ まとめ：人が幸せにキャリアを重ね、個人がその発展に貢献しうる組織とは。(事例) | 事前学習 | 職場における問題の理解と支援の方法について、これまで学んだことを振り返り復習しておく。 |
| | | 事後学習 | グループディスカッションや他グループの発表をふまえて、事例について改めて要点をまとめる。 |